

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月8日作成

事業番号	2436	担当課等	環境課							
事務事業名	狂犬病予防推進事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	1	目	4	事業開始年度	平成 12 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P58 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	2 ともに支え合い笑顔で 暮らせるまちづくり	I 保健・医療の充実	2 予防対策	(2) 感染症対策の推 進	② 感染症に関する正し い、知識の普及啓発				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	狂犬病の発生予防、まん延を防止する。								
対象	犬を飼っている町民								
内容	法律に基づく犬の登録事務 神奈川県獣医師会の協力による狂犬病予防集合注射の実施 狂犬病予防注射未接種の犬の飼い主に対し、注射を促す通知の発送								

2 実施結果

(単位 円)

区分		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)	
コスト	事業費	212,711	179,494	324,000	
	常勤職員	927,930	884,490	869,340	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	927,930	884,490	869,340	
	総事業費	1,140,641	1,063,984	1,193,340	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源	212,711	179,494	324,000	
	一般財源	927,930	884,490	869,340	
	財源合計	1,140,641	1,063,984	1,193,340	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
畜犬登録数	事業の対象	頭	1,472	1,379	1,396
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
狂犬病予防注射済票交付数	実績	頭	944	948	950

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 犬の鑑札及び狂犬病予防注射を実施した犬の飼い主への注射済票交付は、狂犬病予防法で市町村の事務となっている。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 例年、狂犬病予防集合注射を4月に町内11カ所で実施しており、広く注射の機会を設け、効率的に注射促進を実施している。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 日本国内では昭和31年以来、狂犬病の発症例がないことから、成果は得られていると思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 狂犬病発生予防にもなっており、また、注射済票交付手数料を飼い主から得ており、受益の機会が均等である。

令和2年度までの自己評価または改善点	特に無し。
--------------------	-------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	既に神奈川県獣医師会に犬の登録・注射促進協力事務等の一部を委託している。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	狂犬病予防注射の接種率を上げるために、狂犬病予防注射未接種の犬の飼い主に対して、ハガキを発送しているが、反応がない飼い主には狂犬病予防注射に関する催告を行う。	
令和4年度以降の方向性	狂犬病予防法による市町村事務であり、神奈川県獣医師会の協力もあることから、現状維持とする。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	狂犬病予防法による事務であることから、現状維持とする。
------	----------	-----------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

--

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月8日作成

事業番号	2449	担当課等	環境課							
事務事業名	浄化槽設置整備事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	1	目	4	事業開始年度	平成 15 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P97 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和 した安全・安心のまち づくり	II 持続可能な生活 環境の構築	9 上下水道	(2) 下水道事業の推 進	(4) 下水道計画区域外に おける合併処理浄化 槽への転換促進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
					○				
目的	生活排水による公共用水域の水質悪化を防止するため、下水道に接続することができない下水道全体区域外の既存住宅のくみ取り便槽又は単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図るため、費用の一部を補助する。								
対象	下水道全体区域外の既存住宅のくみ取り便槽又は単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図ろうとする町民								
内容	下水道全体区域外の既存住宅のくみ取り便槽又は単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図る場合、次の金額を補助する。 5人槽:332,000円 6人槽~7人槽:414,000円 8人槽~10人槽:548,000円								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)			
	事業費	11,000	11,000	733,000		
コスト 人件費	常勤職員	123,764	117,932	115,912		
	会計年度任用職員等					
	人件費合計	123,764	117,932	115,912		
総事業費	134,764	128,932	848,912			
財源内訳	国庫支出金			240,000		
	県支出金			240,000		
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	134,764	128,932	368,912		
	財源合計	134,764	128,932	848,912		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値	
浄化槽への転換基数	公衆衛生の向上	基	0	0	1	
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値	
浄化槽への転換基数	公衆衛生の向上	基	0	0	1	

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 生活排水による公共用水域の水質悪化防止を防止に寄与することができる。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 近年補助金の交付実績はないが、補助金の申請があれば効果が期待できる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3 該当する世帯が限られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 補助対象者に対しては、受益の機会が均等である。
令和2年度までの自己評価または改善点	当該補助金対象者は限定的であるため、町ホームページに記事で掲載するのみで、積極的な広報は実施していない。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	本事業は補助金交付事業のため該当しない。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	広報への記事掲載など周知方法を検討する。	
令和4年度以降の方向性	今後も国交付金及び県補助金を活用し、補助を継続する予定である。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	国の交付金を活用し、補助を継続する。
------	----------	--------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月8日作成

事業番号	2455	担当課等	環境課							
事務事業名	環境保全推進事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	1	目	4	事業開始年度	平成 16 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P80 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	I 計画的な土地利用による自然環境の保全	1 地球温暖化防止対策	(3) エネルギー	③ 新エネルギーの活用 の検討				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	地球温暖化防止対策として住宅用太陽光発電システムなどを普及するため、補助を実施する。猫の不妊及び去勢手術費を助成することにより、飼い主のいない猫の増加及び猫による被害を抑制する。蛍光灯の適正処分を図り、蛍光灯に含まれている水銀の飛散防止を図る。								
対象	町民								
内容	スマートエネルギー普及のため、太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電池、V2Hを設置する町民に要件に応じて補助金を交付する。 猫の不妊手術に対して3,000円、去勢手術に対して2,000円を限度に手術費の二分の一の助成金を交付する。 収集した蛍光灯を専門業者へ引き渡し、適正処理を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	285,836	287,375	1,166,000	
コスト 人件費	常勤職員	618,820	589,660	724,450	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	618,820	589,660	724,450	
総事業費	904,656	877,035	1,890,450		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	904,656	877,035	1,890,450	
財源合計	904,656	877,035	1,890,450		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
スマートエネルギー設備設置費補助金決定機器数	新エネルギーの普及	件	0	0	18
猫不妊及び去勢手術費助成金交付件数	飼い主がいない猫の増加の抑制	匹	66	60	70
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
スマートエネルギー設備設置費補助金決定機器数	補助実績	件	0	0	18
猫不妊及び去勢手術費助成金交付件数	助成実績	匹	66	60	70

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 町が町民に補助金や助成金を交付することにより、地球温暖化防止及び飼い主がいない猫の抑制を図ることができるため、必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 補助を毎年実施することで、着実に当初の目標に近づくことができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 スマートエネルギー設備設置費補助制度は令和3年10月から開始、猫不妊及び去勢手術助成金については、令和2年度は60匹の助成実績で、前年度と比べ6匹減少したが毎年助成を行うことで一定の成果は得られたと判断している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 特定の町民を対象としておらず、受益の機会は均等である。
令和2年度までの自己評価または改善点	猫の不妊去勢手術費助成金対象者は限定的であるため、町ホームページに記事で掲載するのみで、積極的な広報は実施していない。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 本事業は補助金交付事業のため該当しない。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	広報への記事掲載など周知方法を検討する。 令和3年10月から再生可能エネルギーの普及を促進し地球温暖化防止対策を推進するため、住宅用スマートエネルギー設備設置費補助金制度を開始した。
令和4年度以降の方向性	引き続き補助制度を継続する。

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	町内の環境保全の意識の向上において、補助金及び助成金は必要であると考えため、現状維持とする。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月8日作成

事業番号	2473	担当課等	環境課							
事務事業名	町内美化推進事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	1	目	5	事業開始年度	昭和 48 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P93 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	8 環境衛生	(1) 生活環境の保全	② 不法投棄や野焼きの防止				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	町内の美化を保持し、環境美化を推進する。								
対象	町内各所								
内容	町内一斉清掃(クリーン運動)の実施や公衆便所の清掃委託、海岸の美化保全のための「かながわ海岸美化財団」への負担金など、町内の美化を推進するための事業を実施する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	1,640,598	1,344,969	1,913,000	
コスト 人件費	常勤職員	463,965	442,245	434,670	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	463,965	442,245	434,670	
総事業費	2,104,563	1,787,214	2,347,670		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	346,000	345,000	361,000	
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	1,758,563	1,442,214	1,986,670	
財源合計	2,104,563	1,787,214	2,347,670		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
町内一斉清掃	美化活動の実績	日	1	0	1
海岸美化財団による海岸清掃	海岸清掃の実績	kg	2,588	1,569	1,500
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
町内一斉清掃	美化活動の実績	日	1	0	1
海岸美化財団による海岸清掃	海岸清掃の実績	kg	2,588	1,569	1,500

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 町内の美観や環境美化を保持するために必要な事業で、観光立町である本町にとって、美化の維持は必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 事業実施のための費用や公衆便所の清掃委託料等の経常的な経費が主なものであり、環境美化に必要な費用である。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 町内一斉清掃の実施により、環境美化の意識高揚を図ることができ、美化推進の目的は達できる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 町内全域を対象としており、受益の機会は均等である。
令和2年度までの自己評価または改善点	令和2年度の町内一斉清掃は、新型コロナウイルス感染症の予防のため中止した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	公衆便所の清掃業務を既に委託している。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	令和3年度も町内一斉清掃は、新型コロナウイルス感染症の予防のため中止した。夏休み期間中の平日の文化福祉会館の公衆便所の清掃は、収集事務所職員で対応し、委託料を抑制することができた。	
令和4年度以降の方向性	引き続き、収集事務所職員が文化福祉会館にある公衆便所の清掃に対応するなど、事業の合理的かつ効果的な執行に努める。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	町内美化の推進のため事業継続は必要と考える。
------	----------	------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月8日作成

事業番号	2510	担当課等	環境課								
事務事業名	不法投棄・散乱ごみ防止事業										
予算科目コード	会計	1	款	4	項	1	目	5	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P93 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	8 環境衛生	(1) 生活環境の保全	② 不法投棄や野焼きの防止				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	不法投棄物や街中の散乱ごみをなくすため、各種業務を行う。								
対象	町内各所								
内容	町内の主要道路や河川などにおける不法投棄物や散乱ごみの撤去、ポイ捨て防止木製ごみ箱からのごみ回収及び不法投棄パトロールの実施等。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	7,310,781	6,260,552	6,345,000	
コスト	常勤職員	309,310	294,830	289,780	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	309,310	294,830	289,780	
総事業費	7,620,091	6,555,382	6,634,780		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	7,620,091	6,555,382	6,634,780	
財源合計	7,620,091	6,555,382	6,634,780		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
不法投棄物回収量	不法投棄物回収量	kg	1,720	2,115	1,800
町内清掃等ごみ回収量	散乱ごみ等回収量	kg	20,544	19,975	18,000
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
不法投棄物回収量	回収した不法投棄物量	kg	1,720	2,115	1,800
町内清掃等ごみ回収量	散乱ごみ等回収量	kg	20544	19,975	18,000

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 不法投棄・散乱ごみの対応は、町内美化の維持のために必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 地域が広範囲であり、不法投棄の発見が困難な場合もあるが、地道に対応していく必要があり、一定の効果を上げていると考える。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 定期的に巡回し不法投棄物や散乱ごみを回収することにより、環境美化を図っている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 特定の住民を対象としておらず、町内全体の環境美化のために実施する事業であるため、受益の機会は均等である。
令和2年度までの自己評価または改善点	監視カメラの設置し、不法投棄の映像を基に警察に通報した事例があった。不法投棄者の特定や警察への通報する姿勢が広まれば更なる抑止が期待できる。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	既に不法投棄物処理、監視パトロール業務、ポイ捨て防止木製ごみ箱のごみ回収及び小動物処理業務等を委託している。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	散乱ごみの回収やパトロールなどを引き続き実施していく。	
令和4年度以降の方向性	当該事業の委託業務は、下水道の整備に伴う一般廃棄物処理事業等の合理化に関する特別措置法の代替事業でもあるため現状維持とする。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	観光立町である本町において、環境美化は重要な施策であり、不法投棄されたごみやポイ捨てごみなどを適切に処理する必要があるため、現状維持とする。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月9日作成

事業番号	2582	担当課等	環境課							
事務事業名	ごみ収集対策事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	2	目	2	事業開始年度	平成 15 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P90 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	6 循環型社会の構築	(2) ごみ処理体制の充実	① ごみ収集体制の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
		○	○	○			○		
目的	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、区域内で排出された一般廃棄物を円滑に収集するもの。								
対象	町民								
内容	ごみ収集の実施。収集については「湯河原町ごみ収集業務計画」に基づき、順次民間委託へ切り替え、令和2年度7月から町内全域のごみ収集委託業務を民間業者へ委託した。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)			
コスト	事業費	74,919,040	95,213,350	125,586,000		
	人件費	常勤職員	59,523,616	41,824,868	40,476,118	
		会計年度任用職員等		1,214,245		
		人件費合計	59,523,616	43,039,113	40,476,118	
	総事業費	134,442,656	138,252,463	166,062,118		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	1,026,500	1,199,500	1,025,000		
	一般財源	133,416,156	137,052,963	165,037,118		
	財源合計	134,442,656	138,252,463	166,062,118		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値	
収集日数	収集を実施した日数	日	260	259	261	
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値	
収集実績	委託によるごみ収集量	t	5,909	7,152	7,800	

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規定により、一般廃棄物の収集・運搬・処分については、市町村が行うこととなっているため、必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 収集職員が今年度以降退職するにあたり、退職者の補充を行わず、それに伴い、天蓋車・パッカー車も減車している。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 各ごみステーションから美化センターへ収集運搬されることが確実に行われており、一定の成果は得られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 ごみ収集は、収集方法や収集日については全町一律であるので、ごみ収集はカレンダーどおりに実施されており、受益の機会均等であると言える。

令和2年度までの自己評価または改善点	平成15年度から一部地域でごみの収集委託を開始し、平成24年度及び平成29年度にその地域を拡大した。令和2年7月から町内全面委託となった。
--------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 令和2年度7月から町内全域の収集委託業務を民間業者へ委託した。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	令和2年7月からごみ収集全町民間委託を実施しているが、引き続き直収集員による粗大ごみ回収及び一時多量ごみの対応等を行っていく。
令和4年度以降の方向性	収集職員による粗大ごみの収集やパトロール、一時多量ごみの回収など、委託事業者と連携を図りながら町内美化活動を実施していく。

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	法令に基づき実施している事業で、現在の収集体制を維持していく。
------	----------	---------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月9日作成

事業番号	2595	担当課等	環境課							
事務事業名	リサイクル推進事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	2	目	2	事業開始年度	平成 16 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P90 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	6 循環型社会の構築	(1) 3Rの推進	① リサイクル・リユースの促進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
目的	町民一人ひとりの意識啓発による分別の徹底、リサイクルに対する意識の向上を目指すとともに、資源回収活動の推進を図る。								
対象	町民								
内容	「びんカンステーション」において、分別指導員により出し方の指導や見守りを実施する。 資源ごみを定期的に回収している登録団体への奨励金を交付し、資源回収活動の推進を図る。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	1,007,665	961,800	1,275,000	
コスト 人件費	常勤職員	309,310	294,830	289,780	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	309,310	294,830	289,780	
総事業費	1,316,975	1,256,630	1,564,780		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源	140,184	182,577	139,000	
	一般財源	1,176,791	1,074,053	1,425,780	
財源合計	1,316,975	1,256,630	1,564,780		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
奨励金交付団体数	資源回収量に影響	件	13	12	14
びんかん指導員活動回数	活動回数	回	1,397	1,550	1,600
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
資源回収団体回収量	資源回収量に影響	kg	33,135	26,530	28,000

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 限りある資源を有効活用するため、資源循環・再利用は必要不可欠であり、町として廃棄物の適正処理を町民に促し、また奨励することは必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 分別指導員の活動は一部のびんカンステーションに限られるが、見守りが実施されることでびんカンの正しい出し方の推進が図られる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 資源回収実施団体数に大きな変化はなく、資源の回収量に関しては、コロナの影響があるものの一定の回収実績がある。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 分別指導員の見守りによりごみ出しのモラル向上が図られる。また、資源回収団体による資源ごみ回収によりごみの資源化が図られる。
令和2年度までの自己評価または改善点	資源回収団体の回収量は近年、一定の数量を回収しているが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により回収量が減少した。引き続き事業を実施し、リサイクル、リユースに対する意識の向上のため呼びかけを強化する。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	分別指導員には町から謝礼を支出し、集団資源回収団体には回収量に応じた奨励金を支出してリサイクルの推進等を図るための事業であるため、委託等はなじまないと考える。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	ごみ出しのルールを徹底を図るため、問題のあるごみステーションや分別指導員からの問題提起について、注意喚起のための表示を行うなど個別に対応を行った。	
令和4年度以降の方向性	ごみの資源化を向上させるため、引き続き事業を推進していく。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	ごみの量を減らし、町民のリサイクル、リユースに対する意識向上を目指すための事業であり、現状維持とする。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月9日作成

事業番号	2611	担当課等	環境課							
事務事業名	ごみ減量化促進事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	2	目	2	事業開始年度	平成 21 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P90 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	6 循環型社会の構築	(1) 3Rの推進	② リデュースの促進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	ごみの分別ルールを周知するとともに、ごみの発生抑制を推進する。								
対象	町民								
内容	ごみの分別方法等を周知するため、冊子「ごみと資源の分け方・出し方」を作成し、配布する。 コンポスト及び電動式生ごみ処理器の購入者に対して助成金を交付する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
	事業費	375,376	428,645	206,000	
コスト	常勤職員	309,310	294,830	289,780	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	309,310	294,830	289,780	
総事業費	684,686	723,475	495,780		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	684,686	723,475	495,780	
財源合計	684,686	723,475	495,780		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
生ごみ処理機設置助成金	助成件数	件	3	9	10
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
ごみの総排出量	ごみの総排出量	t	13,261	13,279	13,200

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 ごみの減量化は国民の責務であり、町はごみの発生抑制を図るため、その啓発に努めなければならない。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 事業の性質上、すぐに効果が表れるものではないが、ごみ減量化の啓発と生ごみ処理器の普及によって効果が期待できる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3 即時に成果が表れるものではないが、今後ごみ減量化の啓発と生ごみ処理器の普及が進むにつれて成果が上がってくると思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 希望する町民に対して、受益の機会は均等である。

令和2年度までの自己評価または改善点	正しいごみの捨て方について、町広報紙や窓口対応、町ホームページで住民に周知を図った。今後は、ごみ減量化に向けて引き続き各家庭や飲食店等でのごみの水切りの励行や食品ロスなどの抑制の周知を図っていきたい。
--------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 ごみ減量化の推進は市町村の責務である。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	冊子「ごみと資源の分け方・出し方」を配布し、ごみ分別の周知を図った。また、町広報に生ごみ処理器助成金制度の案内や、減量化対策として食品ロスの記事を掲載し、町民への周知を図った。
令和4年度以降の方向性	引き続き町民に対して、ごみと資源の分け方や出し方、ごみの減量化について広報するとともに、生ごみ処理器の更なる普及を目指す。

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続きごみ減量施策について研究し、更なるごみ減量化に取り組んでいく必要がある。
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

--

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和3年度事務事業評価シート

令和3年11月9日作成

事業番号	2625	担当課等	環境課							
事務事業名	し尿等処理事業									
予算科目コード	会計	1	款	4	項	2	目	3	事業開始年度	昭和 43 年度

1 事業概要(令和3年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P92 ゆがわら2021プラン 前期基本計画	3 四季彩と暮らしが調和した安全・安心のまちづくり	Ⅱ 持続可能な生活環境の構築	7 し尿・浄化槽汚泥処理	(1) し尿・浄化槽汚泥処理体制の充実	① 新たなし尿・浄化槽汚泥処理体制の確立				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ等
	10 不平等	11 都市	12 生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実行手段	該当なし
					○				
目的	公衆衛生環境を保持するため、くみ取り式便所のし尿及び浄化槽の汚泥を適正に処理する。								
対象	町民								
内容	熱海市と真鶴町、湯河原町の1市2町により、し尿及び浄化槽汚泥の共同処理を行うため、熱海市に前処理施設及び下水道投入設備を整備し、令和2年4月からし尿及び浄化槽汚泥の共同処理を開始した。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(見込)		
			令和元年度	令和2年度	目標値
コスト	事業費	182,163,234	66,746,386	76,586,000	
	人件費				
	常勤職員	309,310	294,830	289,780	
	会計年度任用職員等				
	人件費合計	309,310	294,830	289,780	
	総事業費	182,472,544	67,041,216	76,875,780	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	22,993,000			
	地方債				
	その他特定財源	1,173,660	6,229,945	2,273,000	
	一般財源	158,305,884	60,811,271	74,602,780	
	財源合計	182,472,544	67,041,216	76,875,780	
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
し尿等処理量	し尿等処理量	kℓ	4,201	4,490	4,400
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	令和元年度	令和2年度	目標値
し尿等処理量	し尿等処理量	kℓ	4,201	4,490	4,400

3 令和2年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、一般廃棄物の収集、運搬、処分については、市町村が行うこととなっているため、必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 し尿処理を熱海市と真鶴町の1市2町で共同処理しており、一定の効果が得られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 適正に、し尿・浄化槽汚泥の処理を行っている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 し尿収集手数料は条例で規定されており、浄化槽汚泥の収集は許可業者が行っている。また、し尿等の運搬及び処理は廃掃法に基づき町が適切に実施しているため受益の機会は均等である。
令和2年度までの自己評価または改善点	熱海・湯河原広域行政推進協議会の専門部会で、湯河原・真鶴のし尿等を熱海市の施設へローリー車で運搬し、前処理後、市下水道施設へ投入する方式をとることとし、令和元年度に施設整備を行い、令和2年4月から共同処理を開始した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	し尿の収集、し尿及び浄化槽汚泥の貯留、運搬処理の一連の業務において委託している。
令和3年度の見直し及び改善(実績または予定)	令和2年4月から熱海市でのし尿・浄化槽汚泥の共同処理を開始している。し尿等の円滑な運搬のため真鶴町でタンクローリー車を購入し運用していく予定であるが、導入費の1/2を湯河原町で負担する。	
令和4年度以降の方向性	熱海市の施設でのし尿等共同処理を継続する。	

5 一次評価(令和4年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	引き続き熱海市の施設でし尿等共同処理を行っていく。
------	----------	---------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--